

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ハーフタイム

代表者・役職名 氏名 理事長 三枝 功侍

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

葛飾区における生きづらさを抱えた子どもたちの居場所づくり活動

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

当会は、貧困、虐待、いじめ、不登校、引きこもり、障害、非行などさまざまな生きづらさを抱えた子どもたちへの寄り添いを実施している団体です。そこで、本助成では、22/10/1～23/3/31 の間において、学校・SC・SSW など関係機関と相談の上、葛飾区内の公共施設においてそうした子どもたちを受け入れ、週1回・1回2～3時間程度の子ども食堂を開催します。不登校の子など多人数の場に苦手意識を持っている子を受け入れること、開催時は食事提供をしながら個別に悩み相談なども応じるため、全体統括スタッフのほか、子どもとボランティアスタッフとで1対1程度の少人数体制にて実施します。受け入れ児の実数は3～5名程度を予定し、子どもの状況・意向を踏まえつつ、各児に対して月1回程度の来訪を促す予定です。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

(1) 結果(延べ)

実施回数: 33回

参加者数: 子ども49名、保護者10名、スタッフ82名、同席した行政職員4名

(2) 成果

本助成では計6名を受け入れ、内訳(重複計上)は、生活保護世帯児2、被虐待児2、不登校児3、ひとり親世帯児3でしたが、たとえば以下のような子どもの好転的变化を見ることができました。

父からの虐待で子・母の母子世帯になったものの、その母が夜間に外出し、夕飯がしばしばカップ麺など偏った食事の上に孤食になっていた小学生を受け入れ、一緒にお夕飯を食べたり、学校や家族関係の相談に乗るなどして、食生活の向上や心の拠り所となることができました。

(3) 社会的な変化

学校、学童、放課後居場所事業など、公的な居場所になかなかつながりにくい子がつながれる居場所の創出。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

(1) 課題

予算に限りがあったため、期間が半年と短くなってしまったこと、寄り添い依頼のあったケースのなかで予算的・スタッフ人間的に定員オーバーとして断ってしまったものがあったことなど。

(2) 今後の展望

さまざまな生きづらさを抱えた子どもたちは、短期的な寄り添いも大事ですが、それだけでは抱えている生きづらさが全面的に解消することはなかなかむずかしいです。すでにこの2023年4月に入ってから継続的に寄り添っているところですが、中・長期的な視野を持って、社会的に自立できるまで寄り添いをし続けることも肝要です。当会でかかわる子どものなかには10年スパンでかかわる子もいるため、引き続き、受け入れた子どもたちの寄り添いを継続していきたいと思っています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

